

優秀賞

命をありがとう

鹿児島県 鹿児島市立桜丘西小学校四年 日高 壮太

「可愛いカマキリがいる。」
ぼくにはわすれられない感動の体けんがあります。
友達と遊びに行った公園で緑色のカマキリを見つけました。

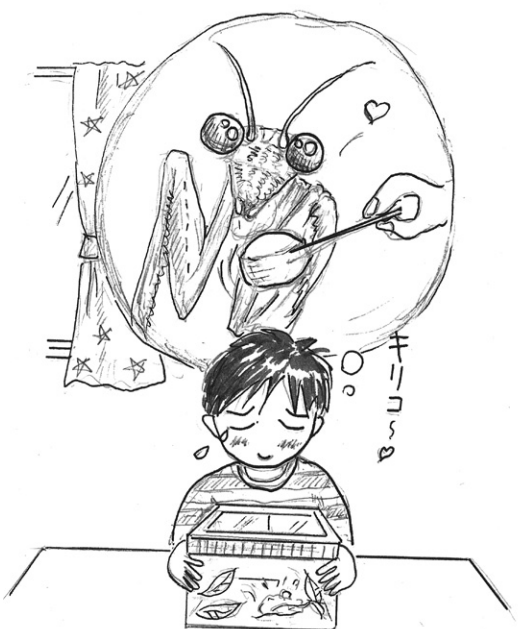
そっとつかまえると、三角形の顔で緑色の目がクリツとしていて、ぼくの頭や手にのぼってきました。ぼくはこの可愛いカマキリをかってみたいと思ってお母さんに聞いてみると、
「ちゃんとせきにんを持ってお世話することができると、かってもいいよ。」

と言ってくれたのでぼくはかうことに決めました。名前はぼくがキリコと名付けました。

カマキリのかい方を図かんやインターネットで調べてみると、カマキリは肉食で、えさは主に生きているバッタやコオロギなどの虫をこのんで食べるこ

とが分かりました。少しかわいそうだなあと思っていました。
産らした後のキリコは動きがゆっくりでえさを与えてもほとんど食べることはありませんでした。産らんから二日後キリコは動かなくなりました。ぼくは悲しくてむねがいたくなりました。
せっかくなたまごを産んだのにどうしてすぐに死んでしまったのだろうとふしぎに思って調べてみると、カマキリのメスは命がけで産らした後そのまま力つきて死んでしまうことが多いことが分かりました。キリコが死んでしまったのは悲しかったけれど、のこしてくれたたまごを大切に見守っていかうと思

いました。
三月のあたたかい日に、ぼくがたまごの様子をみてみると、たまごがふ化していて、虫かごの中に数十匹の小さなカマキリの赤ちゃんがたん生していました。そのすがたを見て本当にうれしくなりました。キリコ新しい命をありがとう。



したが、虫の世界で生きていくためには、必要なことなのだと思います。
休みの日には公園に行って、えさになりそうな虫を探してつかまえては、キリコに与えました。
えさやりで一番おどろいたのは、自分の体よりも大きなトノサマバッタをカマキリが上手にとらえてむしゃむしゃ食べていた事です。虫がとれなかった時は、ハムにつまようじをさして、生きている虫のように手で動かしながら与えると、ハムをすぐ両手でつかまえて食べました。

毎日のえさやりや、虫かごのそうじ、水分を与えるためのきりふきは少し大変だったけど、がんばりました。

ある日学校から帰ってきて、いつものように虫かごをのぞくと、虫かごのふたのふちのところに、二センチ位の丸くて黄色いあわの様なぶったいがつい